

道内での読書環境の整備支援を継続して行うための組織基盤強化事業

ボランティアスタッフを対象とした アンケート実施報告書

2022 年 3 月

一般社団法人北海道ブックシェアリング

目次

アンケート実施の概要	1
アンケート集計結果.....	3
回答結果から見たことを整理する	26
2022 年度の活動のヒント.....	27
おわりに	28

アンケート実施の概要

○背景

本会が取り組むブックシェアリング事業は、読み終えた本を個人や企業などから寄贈していただき、本会のボランティアスタッフがクリーニング・整理した後、希望する団体や施設などに、本を無償提供する事業です。

無償提供先が見つからない本は、チャリティ古書バザーを開催し、安価で有償頒布しています。

2020～2021年度は、寄贈本と新規ボランティアの増加し、ボランティアスタッフとのコミュニケーションをとれる機会となっていた土曜日の活動日に事務局が参加できる機会が減り、ボランティアと事務局の十分なコミュニケーションがとれない状態が続いています。

このような背景から、ボランティア活動や本の提供活動が効果的に展開できない場面が増えていくのが現状です。

本アンケートは、円滑な事業展開につなげるために、課題を整理し、把握することを目的としています。アンケートを通してボランティアスタッフに活動を評価してもらうことで、活動の改善点や優れている点を整理し、より充実した活動展開につなげます。

○目的

- ・事業で取り組んでいる活動についての現状把握

（主にボランティアスタッフが関わっている活動において、現状のままで良い部分と、課題となっている部分を整理します）

- ・ボランティアスタッフの事業への参加意識を高める
- ・次年度計画を作成する際に参考にできる報告書の作成

○スケジュール

2021年12月 評価専門員の選出、アンケート実施概要決定

2022年1月 評価参加者選出、アンケート検討会実施

2月 アンケート完成、アンケート実施

3月 集計、報告会実施、報告書作成、終了

○実施概要

対象者：本会のボランティア活動に参加している方（参加経験のある方全員）

実施期間：2022 年 2 月 12 日～2 月 25 日

回答所要時間：平均約 20 分

回答数：20 名（目標回答数：20 名、登録ボランティアスタッフ数：約 30 名）

設問：※詳細な設問については、添付資料の設問表をご参照ください

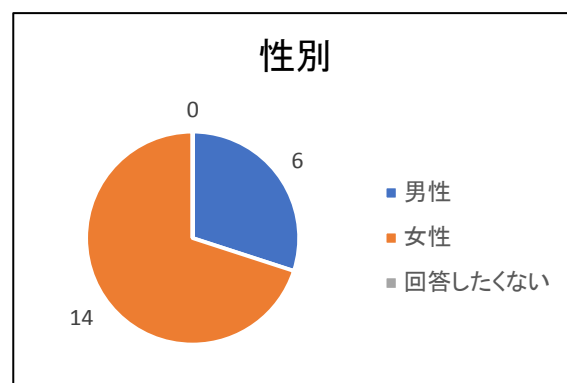
- 1、属性について（性別、年齢、活動参加年数、居住地、基本移動手段など）
- 2、活動の参加理由
- 3、団体に対する理解度（団体理念、事業内容、収支、組織などについての把握）
- 4、活動内容について（活動の難易度や身体的負担、意義など）
- 5、本の再活用の成果について（寄贈本冊数、無償提供冊数、有償頒布冊数など）
- 6、団体運営について（情報共有方法や活動報告・計画の共有など）
- 7、今後の活動について（参加の継続意志や本会に期待していることなど）

アンケート集計結果

1、属性

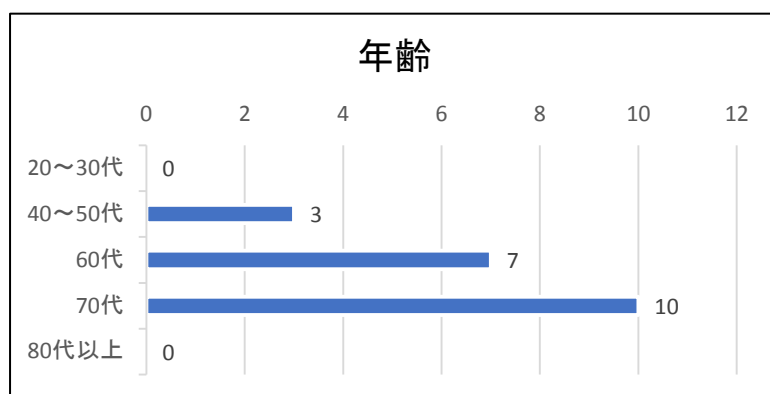
(1) 性別

n	男性	女性	回答したくない
20	6	14	0
100%	30%	70%	0%



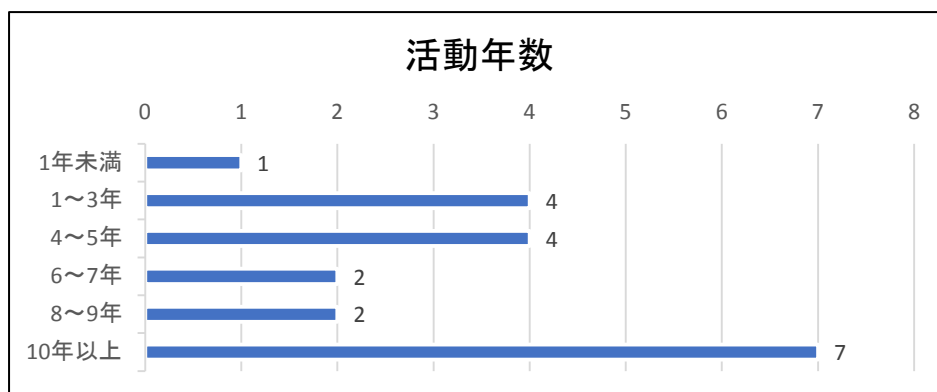
(2) 年齢

n	20～30代	40～50代	60代	70代	80代以上
20	0	3	7	10	0
100%	0%	15%	35%	50%	0%



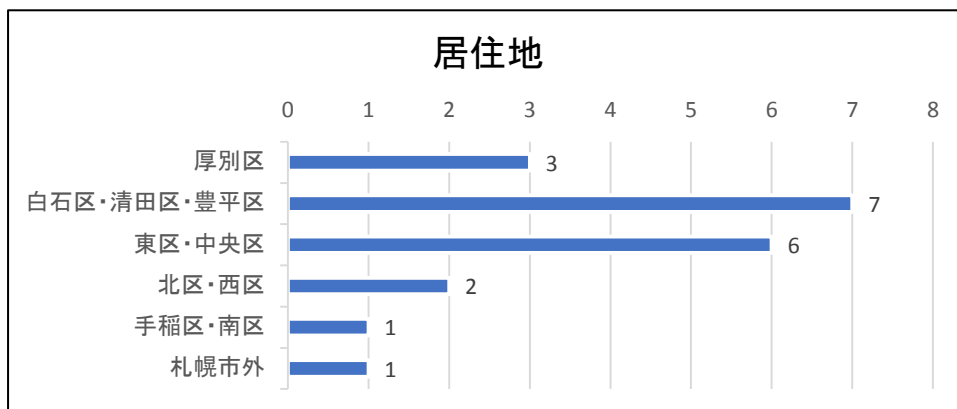
(3) 活動参加年数

n	1年未満	1～3年	4～5年	6～7年	8～9年	10年以上
20	1	4	4	2	2	7
100%	5%	20%	20%	10%	10%	35%



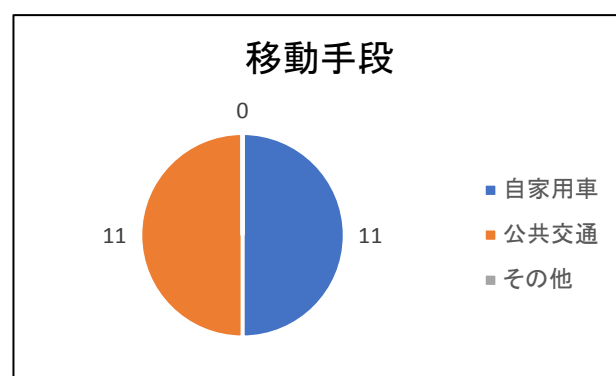
(4) 居住地

n	厚別区	白石区・清田区・豊平区	東区・中央区	北区・西区	手稲区・南区	札幌市外
20	3	7	6	2	1	1
100%	15%	35%	30%	10%	5%	5%



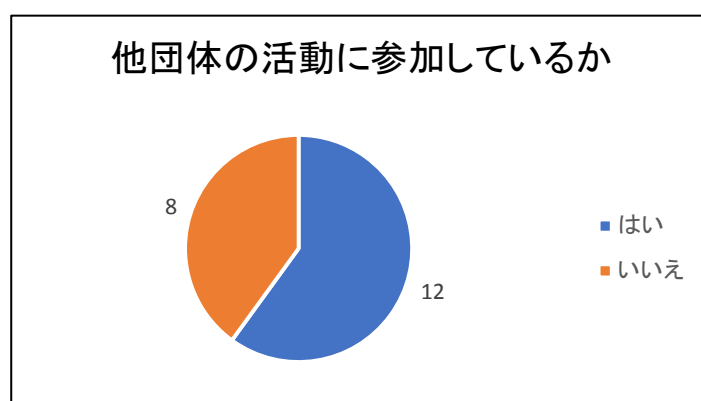
(5) 活動に参加する際の基本的な移動手段

n	自家用車	公共交通	その他
22	11	11	0
100%	50%	50%	0%



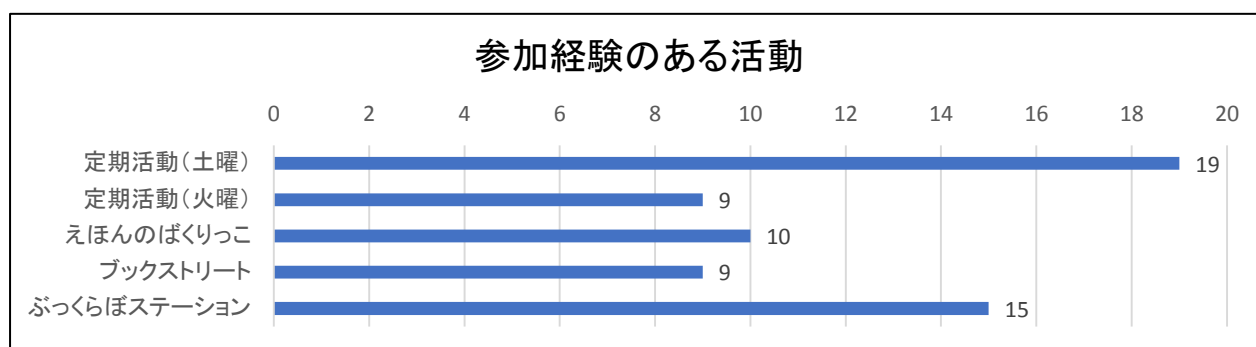
(6) 本会の他に参加しているボランティア活動や社会貢献活動がありますか

n	はい	いいえ
20	12	8
100%	60%	40%



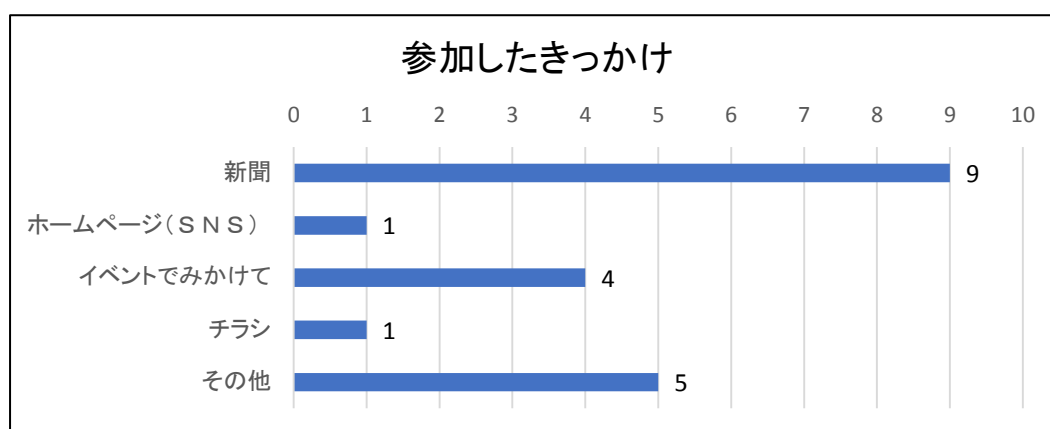
(7) 本会の活動で参加したことがある活動をすべて選択してください

n	定期活動（土曜）	定期活動（火曜）	えほんのぱくりっこ	ブックストリート	ぶっくらぼステーション
62	19	9	10	9	15
100%	31%	15%	16%	15%	24%



(8) 本会のボランティア活動に参加したきっかけ

n	新聞	ホームページ（SNS）	イベントでみかけて	チラシ	その他
20	9	1	4	1	5
100%	45%	5%	20%	5%	25%



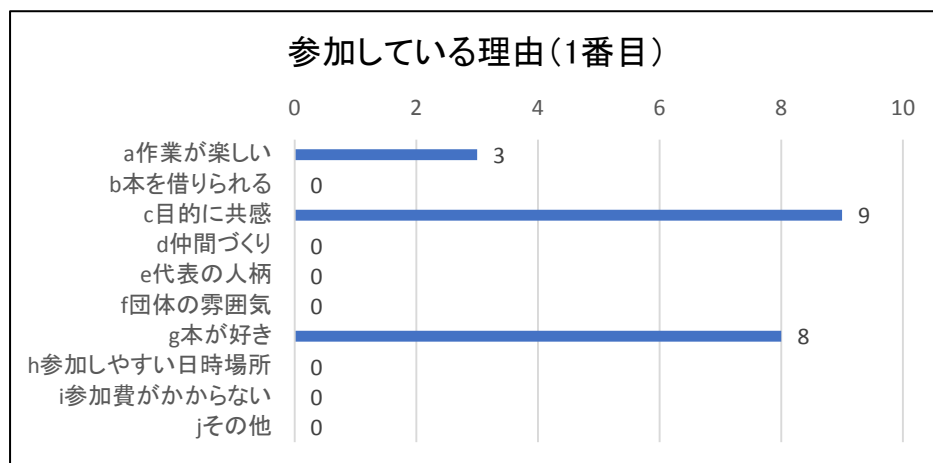
＊「その他」を選択した人の記述

- ・代表の講演会に行って
- ・震災支援活動のTV報道を見て
- ・活動報告会
- ・ボランティアの方に誘われて
- ・知人の紹介

2、活動に参加している理由を以下の中から選んで、優先順位が高い順番に3つまでお答えください

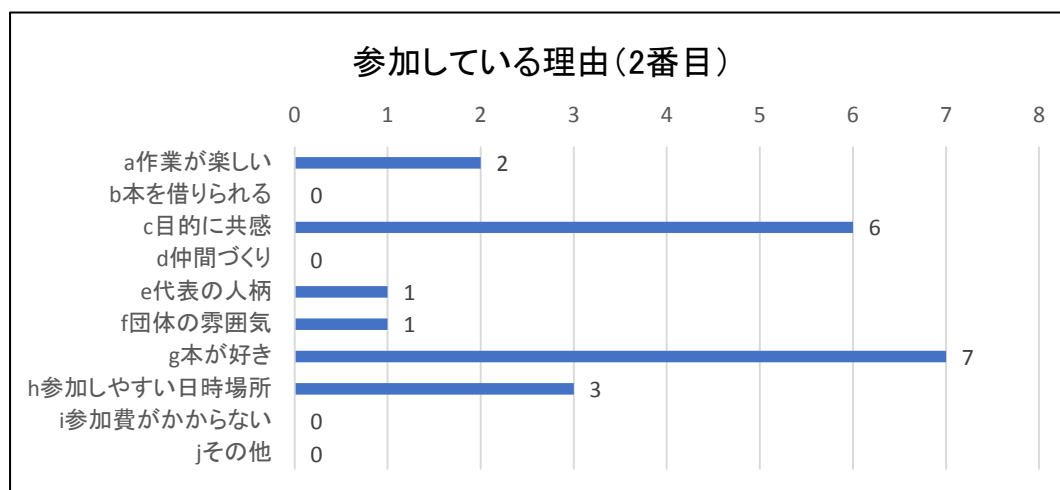
・1番目の理由

n	a 作業が楽しい	b 本を借りられる	c 目的に共感	d 仲間づくり	e 代表の人柄	f 団体の雰囲気	g 本が好き	h 参加しやすい日時場所	i 参加費がかからない	j その他
20	3	0	9	0	0	0	8	0	0	0
100%	15%	0%	45%	0%	0%	0%	40%	0%	0%	0%



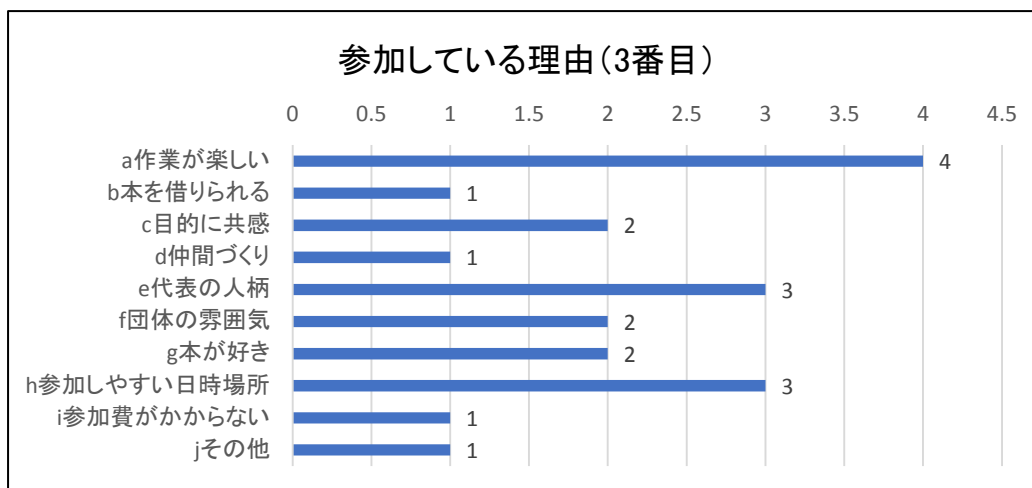
・2番目の理由

n	a 作業が楽しい	b 本を借りられる	c 目的に共感	d 仲間づくり	e 代表の人柄	f 団体の雰囲気	g 本が好き	h 参加しやすい日時場所	i 参加費がかからない	j その他
20	2	0	6	0	1	1	7	3	0	0
100%	10%	0%	30%	0%	5%	5%	35%	15%	0%	0%



・3番目の理由

n	a 作業が楽しい	b 本を借りられる	c 目的に共感	d 仲間づくり	e 代表の人柄	f 団体の雰囲気	g 本が好き	h 参加しやすい日時場所	i 参加費がかからない	j その他
20	4	1	2	1	3	2	2	3	1	1
100%	20%	5%	10%	5%	15%	10%	10%	15%	5%	5%

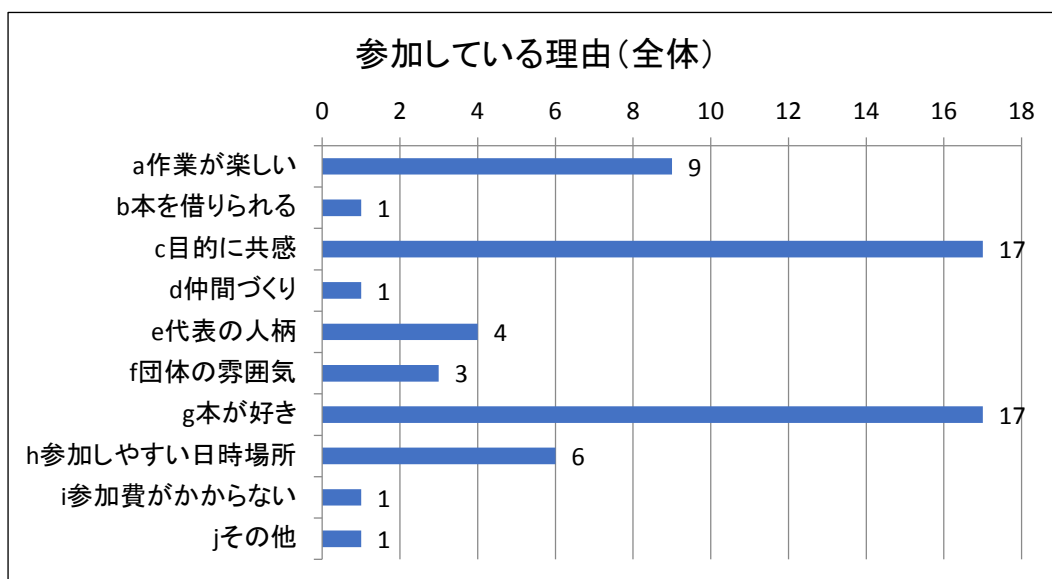


＊「j、その他」を選択した人の記述

- ・もったいない精神

- ・全体

n	a 作業が 楽しい	b 本を 借りられる	c 目的に共感	d 仲間づくり	e 代表の人柄	f 団体の 雰囲気	g 本が好き	h 参加しやすい 日時場所	i 参加費が かからない	j その他
60	9	1	17	1	4	3	17	6	1	1
100.0%	15.0%	1.7%	28.3%	1.7%	6.7%	5.0%	28.3%	10.0%	1.7%	1.7%



【コメント】

回答者全員が「c 目的に共感」「g 本が好き」のどちらか、または両方を選択していました。

「c 目的に共感」を選択する人が多かった背景には、毎週、活動報告や道内の読書環境についての情報共有を行うことで、活動目的を意識する機会が多いことがあげられそうです。

3、団体に対する理解度

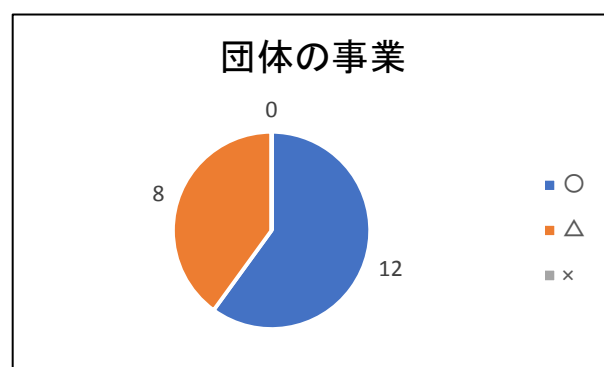
○…知っているし、団体外の人に簡単な説明をすることができる

△…知っているけれども、自分で団体外の人に簡単な説明をすることができない

×…知らない、わからない

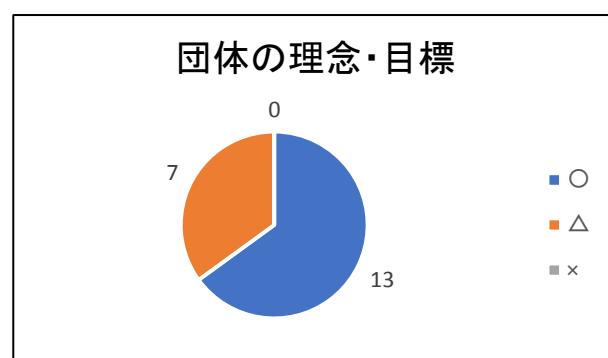
(1) 団体の理念や目標

n	○	△	×
20	13	7	0
100%	65%	35%	0%



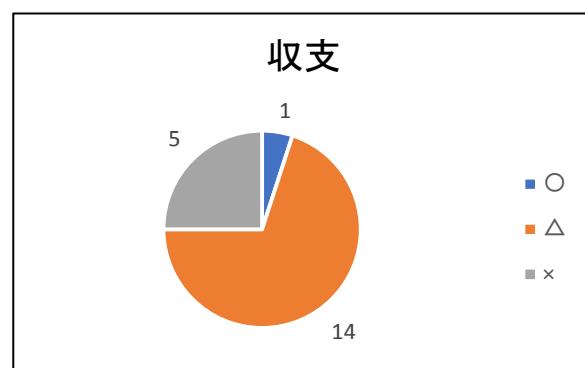
(2) 団体が理念や目標を達成するために取り組んでいる事業を知っているか

n	○	△	×
20	12	8	0
100%	60%	40%	0%



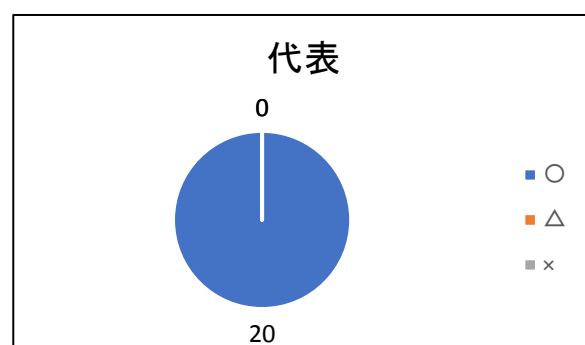
(3) 団体の収支状況について知っているか

n	○	△	×
20	1	14	5
100%	5%	70%	25%



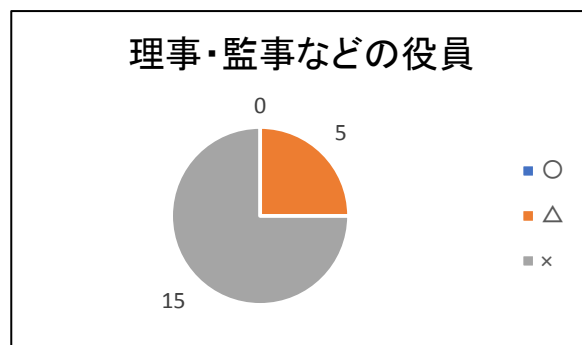
(4) 団体の代表を知っているか

n	○	△	×
20	20	0	0
100%	100%	0%	0%



(5) 団体の理事や監事、評議委員を知っているか

n	○	△	×
20	0	5	15
100%	0%	25%	75%



【コメント】

理解できていることと理解できていないことが、はっきりわかる結果となりました。団体の事業・理念・代表にみついてはほとんどの回答者が理解していると言えますが、収支・役員についての理解は低くなっています。役員については、回答者の7割以上が理解できていないので、知ってもらう働きかけが必要です。役員は、活動の決定権を持つ重要な役割を担っています。ボランティアスタッフが、団体の活動方針について理解を深める上でも役員を知っておくことは大切です。また、収支については、回答者の9割以上が自分で簡単な説明ができない状態です。チャリティー古書バザーの来場者から、「収益の使い道は？」と聞かれることがあるので、お金の動きについても情報共有する機会が必要と思われます。

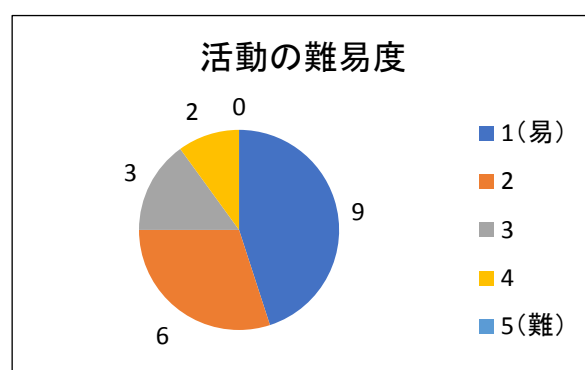
団体への理解が現状のままでも、満足度は高いまま活動を続けていけることがわかりました。一方で、団体に深くかかわっていこうとするボランティアスタッフが少ないのではないかとこの考え方もできます。責任が発生するような立ち位置にボランティアスタッフが参加する機会を設定し、より深く団体として活動することを意識してもらう工夫も必要かもしれません。

4、活動内容について

(1) 定期活動（土曜）での作業について、1～5段階で評価

①活動（作業）の難しさについて

n	1（易）	2	3	4	5（難）
20	9	6	3	2	0
100%	45%	30%	15%	10%	0%

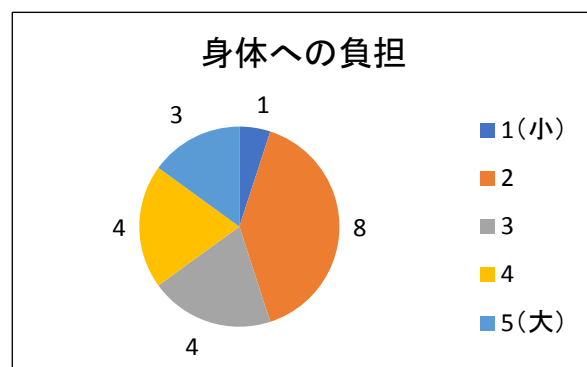


②運搬など、身体への負担は大きいと感じるか

n	1 (小)	2	3	4	5 (大)
20	1	8	4	4	3
100%	5%	40%	20%	20%	15%

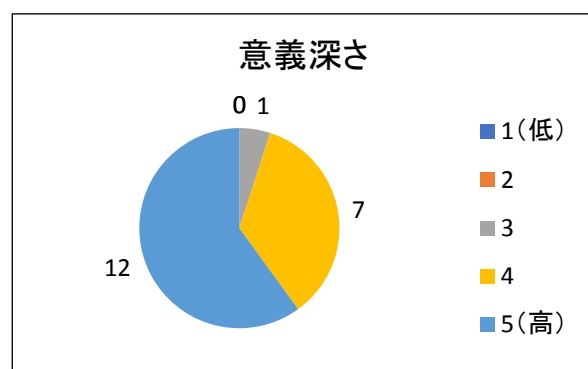
※メモ

「4」「5」を選択した回答者の約60%が、70代でした。



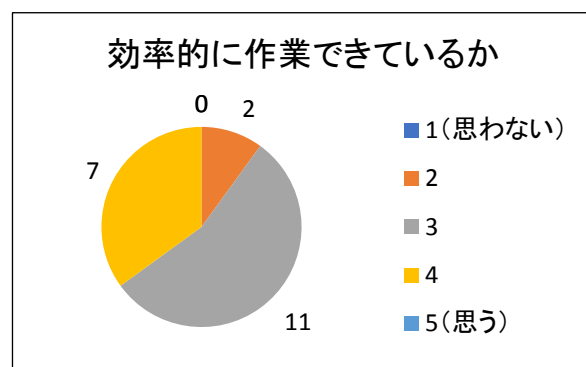
③活動の意義深さを感じるか

n	1 (低)	2	3	4	5 (高)
20	0	0	1	7	12
100%	0%	0%	5%	35%	60%



④作業が効率的に進められていると思うか

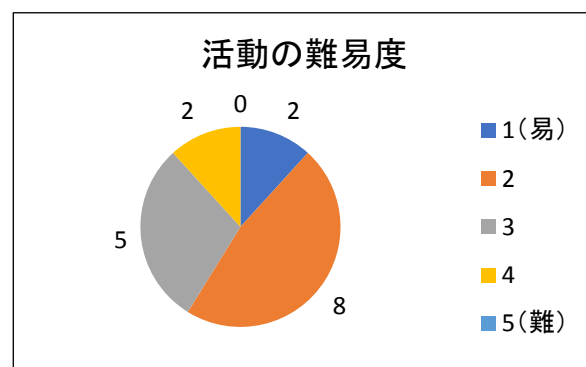
n	1 (思わない)	2	3	4	5 (思う)
20	0	2	11	7	0
100%	0%	10%	55%	35%	0%



(2) イベント運営のお手伝いについて、1～5段階で評価

①活動（作業）の難しさについて

n	1 (易)	2	3	4	5 (難)
17	2	8	5	2	0
100%	12%	47%	29%	12%	0%

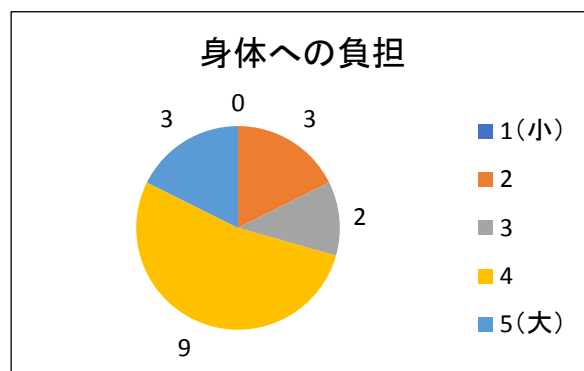


②運搬など、身体への負担は大きいと感じるか

n	1 (小)	2	3	4	5 (大)
17	0	3	2	9	3
100%	0%	18%	12%	53%	18%

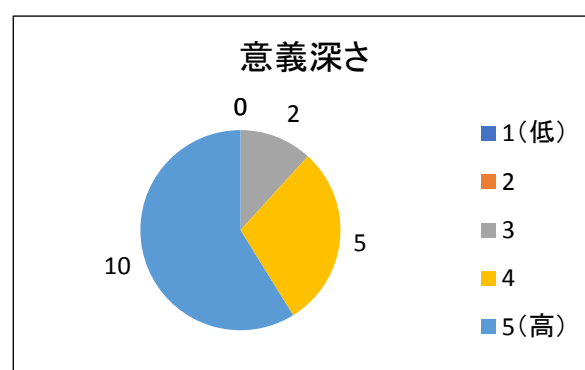
※メモ

「4」「5」を選択した回答者の、約17%が40～50代
50%が50代、約33%が70代でした。



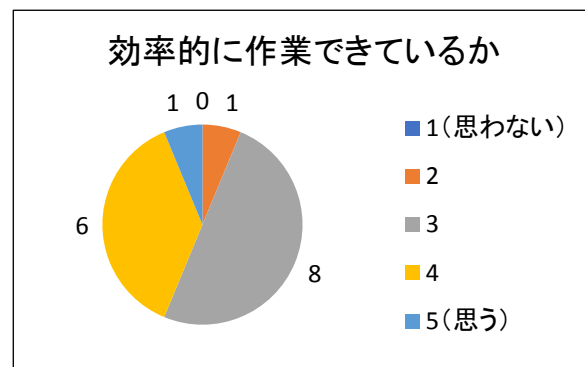
③活動の意義深さを感じるか

n	1 (低)	2	3	4	5 (高)
17	0	0	2	5	10
100%	0%	0%	12%	29%	59%



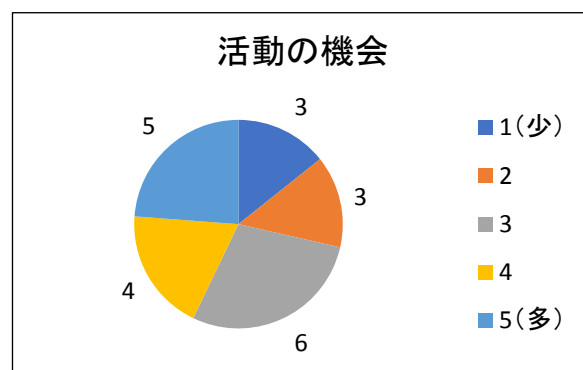
④作業が効率的に進められていると思うか

n	1 (思わない)	2	3	4	5 (思う)
16	0	1	8	6	1
100%	0%	6%	50%	38%	6%



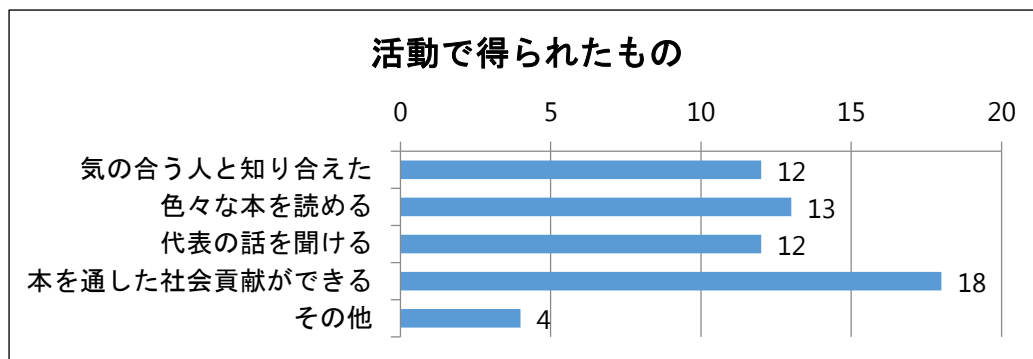
(3) 活動全体を通して、活動に参加できる機会 (回数) について

n	1 (少)	2	3	4	5 (多)
21	3	3	6	4	5
100%	14%	14%	29%	19%	24%



(4) 活動を通して得られたものをすべて選択してください

n	気の合う人と知り合えた	色々な本を読める	代表の話を聞ける	本を通した社会貢献ができる	その他
59	12	13	12	18	4
100%	20%	22%	20%	31%	7%



＊「その他」を選択した人の記述

- ・来訪者の好み、傾向がわかる
- ・こんな自分でも、なんらかの社会貢献をしているという自己満足
- ・自分では手に取らない本の存在を知ったこと
- ・色々な人との交流があって、その場限りのこともあるが、良い勉強になる

(5) 活動の中で困っていることや課題に感じていることはありますか（自由記述）

- ・活動場所が南東部（厚別・江別）に偏っているので、北西部住みとしては少々きついときもある。もう少し中心部～北西部でもイベント等があればなお参加しやすい
- ・クリーニング後の本のしまい場所にも迷いますが、特に教育関係・医学関係・政治経済等の専門的な本の選別（要・不要）に迷います。山積みになっていく箱詰めされたダンボールの置き場所に悩みます
- ・チ・カ・ホ活動への参加者の固定代・少数傾向、コロナ禍の下で集客イベント開催への危惧
- ・事業があまりに属人的、つまりこの事業の発案、具体化、運営などすべて代表個人の能力にかかっており、代表に万が一のことがあったらこの事業はあっという間に空中分解する。そうならないためにはどうするか。難しいが、何らかの形でノウハウを伝承していかなければならない。
- ・困っているわけではありませんが、持病を抱えた高齢者と言うことで、コロナのハイリスク者に該当しているので、コロナが収まるまでちょっとガマン状態です。
- ・コロナウイルス対策をしていることを家族が理解してくれず、重点期間に欠席をしているのがくやしい

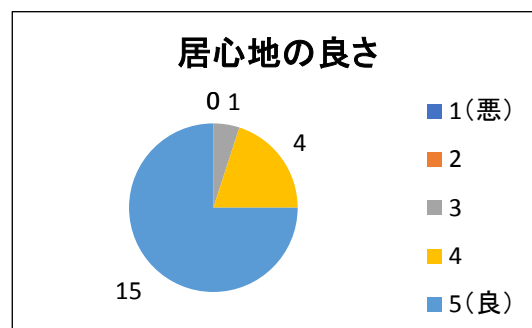
・イベント時の参加者が増えて欲しい（コロナの影響もあり、控えている方々も多いと思いますが…）、コロナ期はいろいろな条件のもとでボランティアの制限もあったことと思うのですが、今後正常に戻った場合、たくさんのイベント活動にどれだけのボランティア参加があるのだろうか？強要できることでもないし、意志参加なのでむずかしいなあ～どうしたらいいのだろうかと思うことがあります

- ・本の需要の高さを判断するのが難しい
- ・画集、写真集など価値のありそうなものがあり、活用用途を考えたほうが良いのではないか？（施設等に寄付するなど）
- ・本の区分について迷うことがある
- ・足が遠のいて3年以上経過していますが、参加していた当時の記憶では困ったことや課題を感じることはありませんでした。時おり荒井さんが不在であっても連絡体制が整っていたことに加え、毎週来ている常連さんと共に楽しく作業を行っていました
- ・⑤にする本の基準があいまいで個人の判断にゆだねられているので時々不安になります
- ・本を乗せて運ぶ台車がもっとあったらいい
- ・クリーニング、整理した本の種類別に判り易く保管する為にはスペースが足りない
- ・寄せられた本に対する私自身の知識が足りないために廃棄の判断（古くても価値のある本なのか、ただ汚い本なのか、新しくても再生させる価値がある本なのかなどなど）
- ・絵本などをししまうときは苦勞します。本を入れた段ボール箱などは重いので大変です。

（6）活動に参加しているボランティア同士の雰囲気

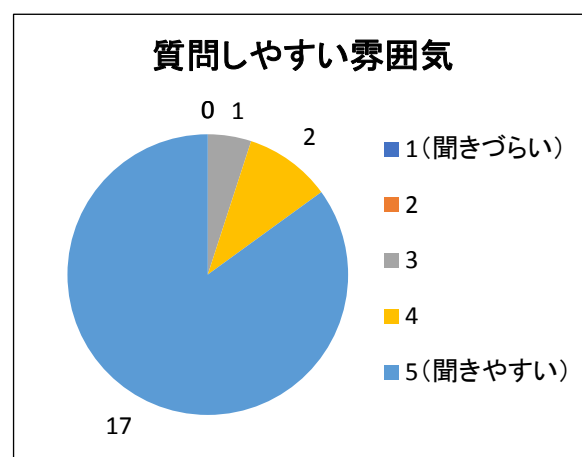
①居心地の良さについて、1～5段階で評価

n	1（悪）	2	3	4	5（良）
20	0	0	1	4	15
100%	0%	0%	5%	20%	75%



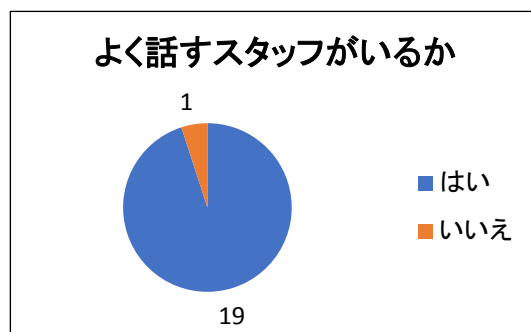
②わからないことがあったときに、気軽に質問できる雰囲気があるか、1～5段階で評価

n	1（聞きづらい）	2	3	4	5（聞きやすい）
20	0	0	1	2	17
100%	0%	0%	5%	10%	85%



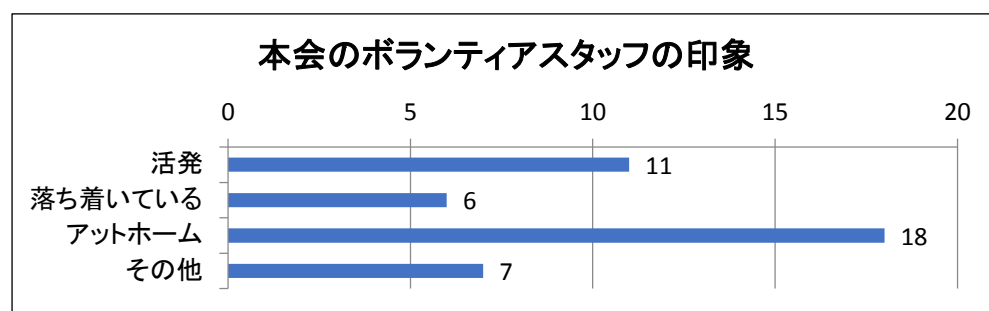
③活動中に良く話をするスタッフはいるか

n	はい	いいえ
20	19	1
100%	95%	5%



④ボランティアスタッフ全体の印象について、あてはまるものをすべて選択してください

n	活発	落ち着いている	アットホーム	その他
42	11	6	18	7
100%	26%	14%	43%	17%



＊「その他」を選択した人の記述

- ・一緒に作業をしていてとても楽しいです
- ・自身の生活に前向き
- ・みんな本好きですネ!!
- ・チカホのイベント時で「このボランティアに興味をもちました」という人もいて、イベント時の対応も大事だなと思いました。「クリーニングして次への活用」の作業がスタートですが、他にもたくさん手のかかる裏方作業があることを事務局はしており、それを知ってもらうことも大事ではないかなと。
- ・色々な方のお話を聞けて、役立つことがある（本のこと、雑談など）
- ・皆さん本当に本が好きでたのしんで活動しているのが感じられる
- ・人生経験豊富な方々との会話を通して知的好奇心が揺さぶられる刺激的なひと時に毎度満足していました

【コメント】

定期活動とイベント運営の両方に共通しているのは、「活動難易度は低く、意義深い活動だと感じるが、身体への負担が大きく、効率的に活動ができているかどうかはわからない」ということです。身体への負担については、イベント運営になると約 7 割の方が負担を感じています。回答者全体の 8 割以上が 60 代以上であり、本会のボランティアスタッフ全体としても 60 代以上の参加者が多いです。大きな負担がかかる部分については、活動の工夫が必要だと言えます。効率的に活動できているかどうかは、定期活動とイベント運営共に半分以上の回答者が「3」を選択しています。この背景には、「活動全体が見えてこない」「作業が多くて全体を見る余裕がない」ことが予想されます。この結果になった原因について分析し、対策する必要があります。

活動を通して得られたものについては、9 割の方が「本を通した社会貢献ができる」を選択しています。「本が好き」＋「社会貢献をしたい」というシンプルな欲求を満たせる場として本会が機能していることが伺えます。この二つを PR することでボランティア募集をすれば、より多くのボランティア参加が見込めると言えそうです。

活動の中の困りごととして最も多かった内容は「本の選別の判断基準」についてでした。「本の選別（要・不要）に迷います」「⑤にする本の基準があいまい」など、本の仕分けの判断基準については課題となっているので、解決のための働きかけが必要です。ただし、この困りごとが、参加意欲に影響しているとは言えなさそうです。

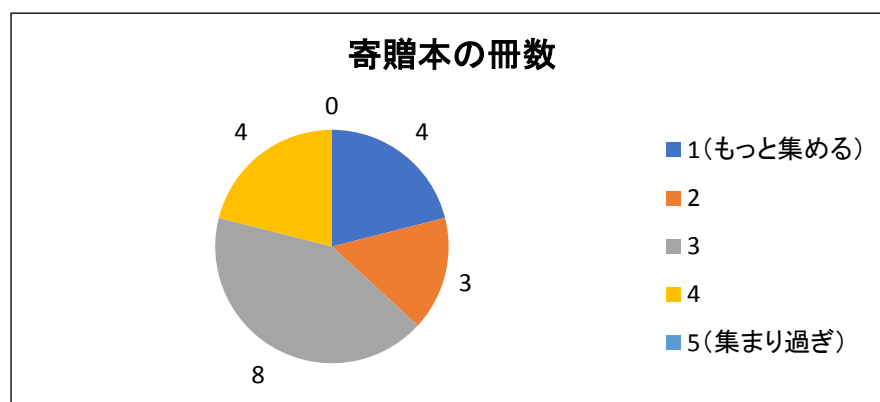
団体のボランティアスタッフ同士の関係や雰囲気は、非常に活動しやすい状態となっています。この状況を維持できるよう意識して、より快適に活動できるよう工夫できると良いでしょう。

5、本の再活用について

1～5 段階で評価、（4）のみ記述

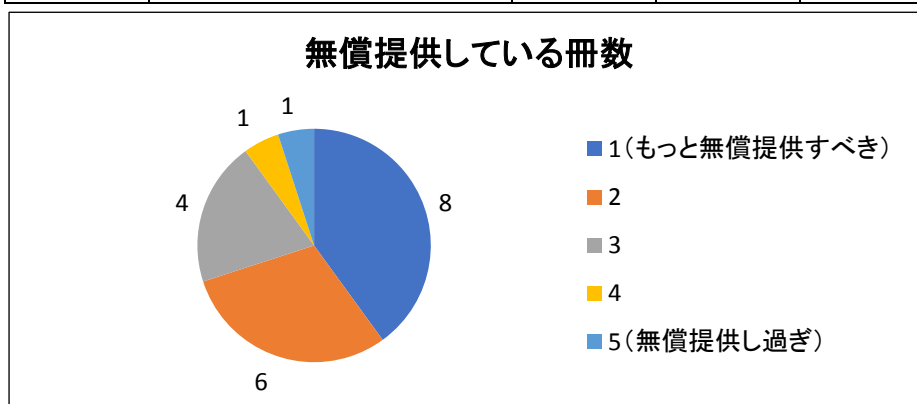
（1）本の再活用の寄贈本の冊数について、十分だと感じるか

n	1（もっと集めたほうが良い）	2	3	4	5（集まり過ぎ）
19	4	3	8	4	0
100%	21%	16%	42%	21%	0%



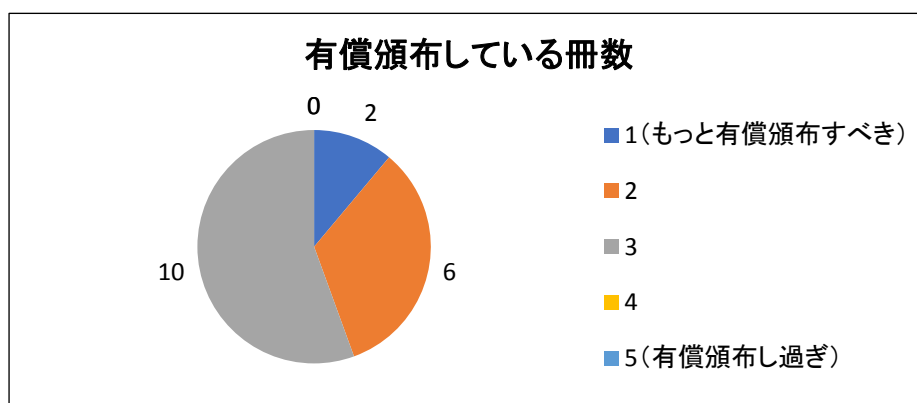
(2) 本の再活用での無償提供の冊数について、十分だと感じるか

n	1 (もっと無償提供すべき)	2	3	4	5 (無償提供し過ぎ)
20	8	6	4	1	1
100%	40%	30%	20%	5%	5%



(3) 有償頒布 (ぶっくらぼステーションやブックストリート) している本の冊数について、どのように感じているか

n	1 (もっと有償頒布すべき)	2	3	4	5 (有償頒布し過ぎ)
18	2	6	10	0	0
100%	11%	33%	56%	0%	0%



(4) 本の再活用全体を通して、事業成果について感じていること (自由記述)

・非営利ではあるがより目標を達成するための増収案は必要と思う。が、私個人では思いつかない…申し訳ない

・ぶっくらぼステーションに参加するとたくさんの方が本を求めていることが実感できて、意義のある活動だと思います

・一般書、文庫等の無償提供先をもっと開拓して、無償提供数を増やす方向を…

・全体像というのはいちボランティアにはなかなかわかりづらいが、喜んでくれる人がいる以上、なんとかして続けていきたい。

・ぶっくらぼステーションについては、効率性を考えれば文庫本の比率を高めたほうがいいと思う反面、もっと分野を広げていったほうがいいかなと思ったり、悩ましい（※児童書、実用書、趣味本、辞典類など）

・大切にしていた本であったと思うが再活用ができると思っていない人が多いようだ、と感じます。

・再活用するために、クリーニング・バザーとボランティアに参加している立場から有償は協力金的（共感してもらっている）なイメージを持ち、PR もしたりします。ブックシェアリングを知ってもらおう機会の1つだと思っています。ただ、事業することは動くこと、動くことは資金が必要になること、悩ましいところです。又、「本」という地味な世界だけど、失ってはならない文化に貢献していることは事実です。

・保育所への提供が少ないと思います

・再活用を利用した人の反応（数字だけでなく、感想等）を知りたい。どのような本が喜ばれるのか、参考になる。又、成果をぶっくらぼステーションでももっとアピールしてはどうか。

・チカホなどでは、毎月活動を待っている方がいるのは大変嬉しい。無償提供を受けられた方がどのように感じているかは不明。（ボランティア通信等に載ると解かる程度である）

・ぶっくらぼでは幼児～中高生向けの本、実用書、洋書、美術書なども常時（毎回）置いてほしい

・活動を継続していることで、認知度が高まり“固定客”的な人ができているのでは？もっと宣伝して、“ばくりっこ”や“無償提供”の団体が増え、児童が本に親しむ機会が増えてほしい（願い）

・活動資金を増やすための方策をもっと考える必要が有るのではないかな

【コメント】

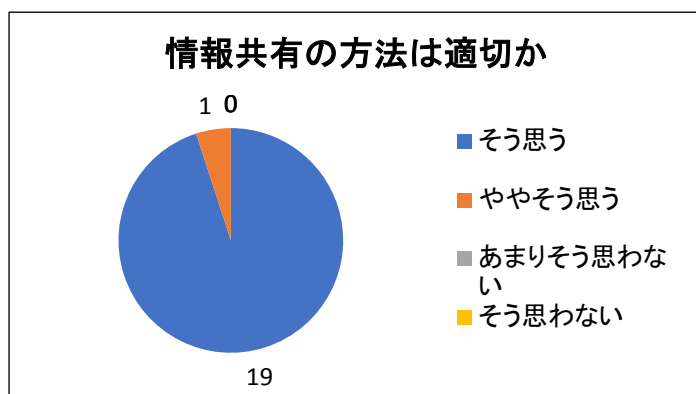
寄贈本の冊数、有償頒布の冊数については、回答者の半分前後が「3」を選択したことに対し、無償提供の冊数では、回答者の4割が「1」を選択しています。無償提供の需要についても分析する必要がありますが、ボランティアスタッフの多くが無償提供の冊数を増やす考えを持っているので、一度、無償提供の機会創出について検討する必要があると言えます。有償頒布の冊数について、回答者の56%が「3」を選択した背景には、団体の活動予算に関わることなのでどちらとも言えないと判断した回答者が多いのではないかと予想できます。

事業成果については、記述内容に大きな偏りはなく、大きく整理してまとめると「活動財源の確保」「意義深い活動だと感じる」「無償提供の機会を増やしてほしい」「ぶっくらぼステーションに持って行く本の幅を広げてほしい」「無償提供したあと、どのように活用されているのか知りたい」などの記述がありました。この中でも若干多かったのは、「活動財源の確保」についての記述でした。活動成果について、意義のある成果が出せていると感じているからこそ、活動を継続するための財源確保について記述した回答者が多いのではないかと予想しました。

6、団体運営について

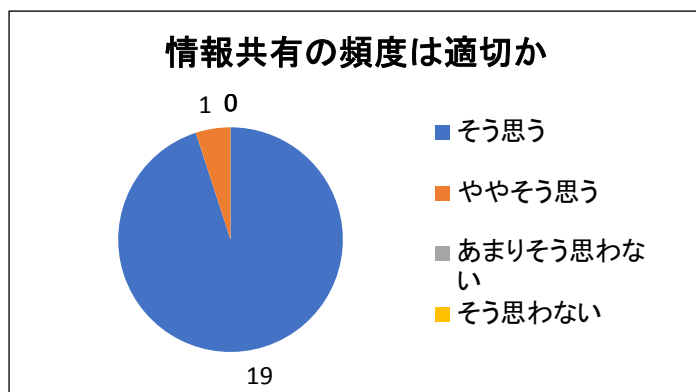
(1) イベントでのボランティアの募集や新型コロナウイルスの影響による活動休止などについて、情報共有の方法は適切か

n	そう思う	ややそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	わからない
20	19	1	0	0	0
100%	95%	5%	0%	0%	0%



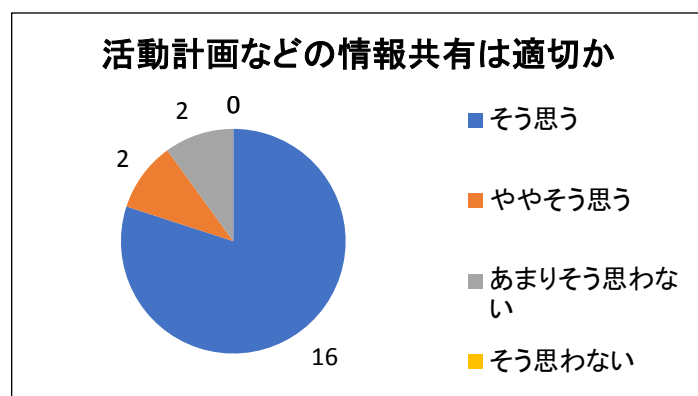
(2) イベントでのボランティアの募集や新型コロナウイルスの影響による活動休止などについて、情報共有の頻度は適切か

n	そう思う	ややそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	わからない
20	19	1	0	0	0
100%	95%	5%	0%	0%	0%



(3) 団体の活動報告や活動計画、土曜日の活動について大きな変更が生じる場合の情報を共有する方法や頻度は適切か

n	そう思う	ややそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	わからない
20	16	2	2	0	0
100%	80%	10%	10%	0%	0%



※「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」を選択した人の理由（自由記述）

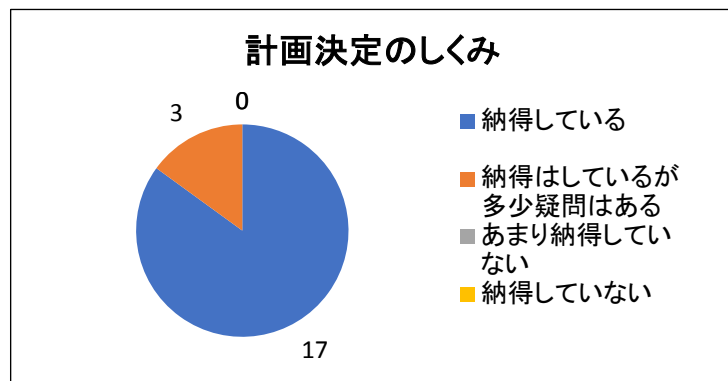
- ・活動の都度、その時点での情報を提示してほしい。土曜日の活動にあまり参加できなくなったので、活動前のミーティングが受けられない
- ・土曜日活動前の荒井さんから状況報告とか、活動報告の生のメッセージは大切だと思います。唯一ボランティアとの基本スタートの現場だと思うので。ボランティア通信もボランティアの仲間意識を繋げる良い取り組みだと楽しみにしている通信です

(4) その他に、共有してほしい団体の情報について（自由記述）

- ・外部や他団体等のイベント活動でも、共感共通するような団体等のものであればもっと提供してもいいかなとは思いますが、問題なければこちらも提供していきたい。
- ・財政収支状況（寄付、助成金、有償イベント収入等、団体の収支全体状況）、ボランティア登録者の人数、名簿等
- ・HPとかブログとかを見ていない人もいる。又、見られない環境の人もいる。HPやブログの情報を多くの人に見てもらえるようにできないか。
- ・無償提供をして施設・団体の活用状況・意見などを聞いてみたい
- ・今まで不満はありません。

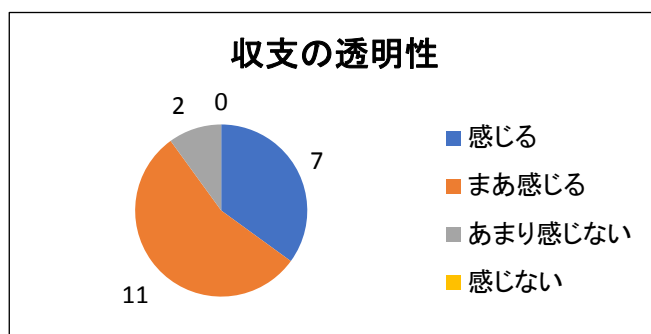
(5) 活動や事業の計画を決定するしくみについて、納得しているか

n	納得している	納得はしているが多少疑問はある	あまり納得していない	納得していない
20	17	3	0	0
100%	85%	15%	0%	0%



(6) 事業の収支について、透明性は保たれているか

n	感じる	まあ感じる	あまり感じない	感じない
20	7	11	2	0
100%	35%	55%	10%	0%

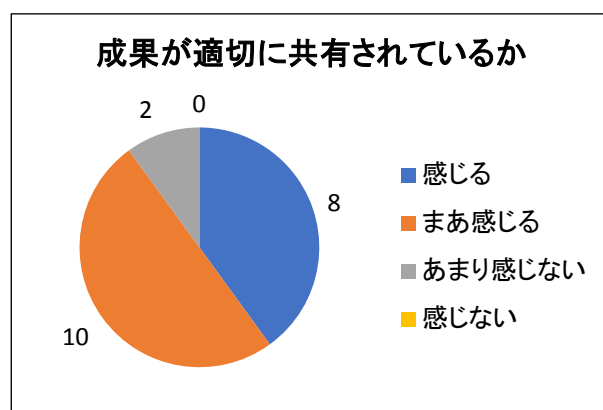


＊「感じない」「あまり感じない」を選択した人の理由（自由記述）

- ・オープンだとは感じているが（隠しているとは全く思っていないが）、会計の専門知識がないので、いまいち届かないと思う
- ・チ・カ・ホ収入は毎回報告されているが、その他の収入、支出状況があまり明示されていない
- ・見落としているだけかもしれませんが、年度収支報告のようなものを見たことがないと思います

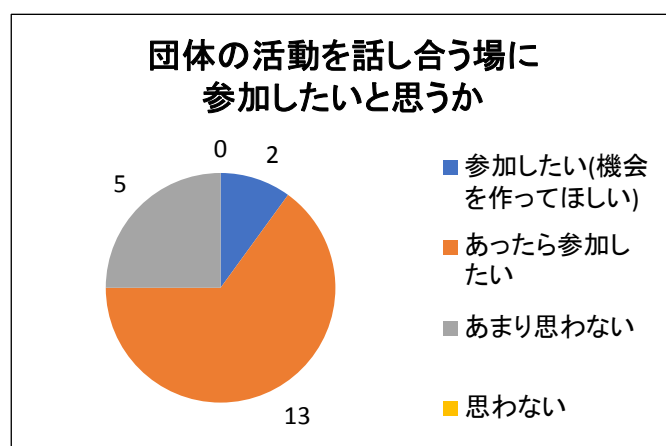
(7) 各ボランティア活動の成果（クリーニングした本や古書バザーの売り上げの使い道など）が、どう活かされたか、適切に情報共有されていると感じるか

n	感じる	まあ感じる	あまり感じない	感じない
20	8	10	2	0
100%	40%	50%	10%	0%



(8) 団体運営全体について情報交換したり、話し合ったりする場があったら参加したいと思うか

n	参加したい(機会を作ってほしい)	あったら参加したい	あまり思わない	思わない
20	2	13	5	0
100%	10%	65%	25%	0%



【コメント】

ボランティア募集や活動休止などの事務連絡については、回答者の9割以上が適切だと思っている半面、活動報告や年間計画の共有、事業を決定するしくみ、収支、成果の共有のいずれかで、十分ではないと感じている回答者が30%（6名）おり、その約67%（4名）が10年以上活動に参加しているボランティアスタッフでした。

団体運営を話し合う場の参加意欲については、回答者の7割以上が「参加したい」「あったら参加したい」のいずれかを選択しています。過去3年以内に、団体の収支や事業決定のしくみなど、運営について話し合う場を設けていないので、一度、現状を説明し、意見交換ができる機会を設けると良いでしょう。

※メモ（クロス集計）

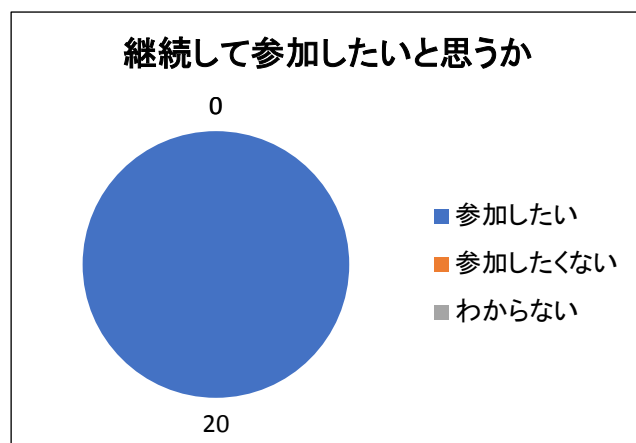
団体運営の方法などについて、十分だと感じていない回答者が選択した回答

	6(3) 特別な情報の共有	6(5) 計画決定の仕組み	6(6) 収支	6(7) 活動の成果の共有	6(8) 話し合いの場
Aさん	ややそう思う	納得してはいるが多少疑問はある	まあ感じる	まあ感じる	あったら参加したい
Bさん	あまりそう思わない	納得してはいるが多少疑問はある	あまり感じない	あまり感じない	参加したい
Cさん	そう思う	納得している	まあ感じる	あまり感じない	あったら参加したい
Dさん	あまりそう思わない	納得している	まあ感じる	まあ感じる	あったら参加したい
Eさん	そう思う	納得している	あまり感じない	まあ感じる	あったら参加したい
Fさん	そう思う	納得してはいるが多少疑問はある	感じる	感じる	参加したい

7、今後の活動について

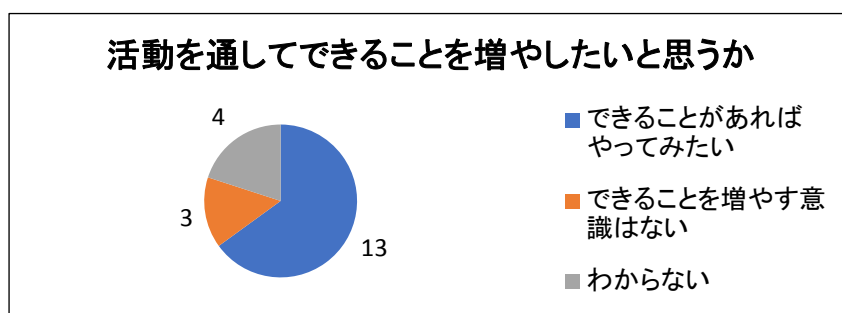
(1) これからも活動に参加したいと思うか

n	参加したい	参加したくない	わからない
20	20	0	0
100%	100%	0%	0%



(2) 活動を通して、自身のできること（本の修理など）を増やしたいと思うか

n	できることがあればやってみたい	できることを増やす意識はない	わからない
20	13	3	4
100%	65%	15%	20%



＊やってみたいこと（自由記述）

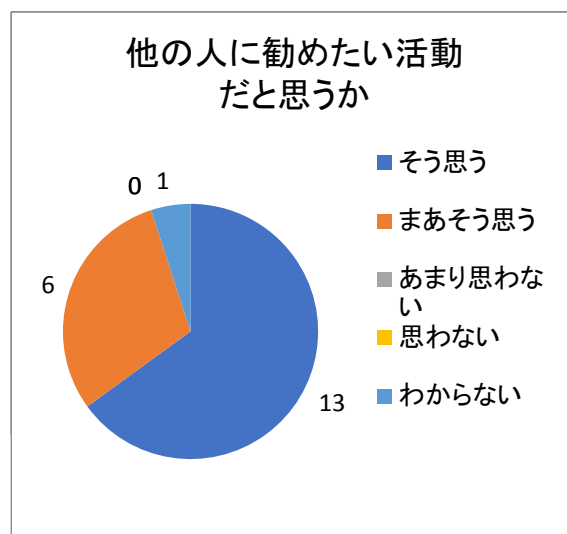
- ・具体的には浮かんでこないが、自分の持つ知識や経験でさらに役立つことがあれば増やしていきたい
- ・本の修理をもっと上手になりたいです。本を寄贈してくれた方へのお礼のしおり等の手作り、えほんのばくりっこに来てくれたお子さんへのプレゼントのコマ等の手作り、ブックカバー（布製）等の手作り品の販売
- ・本の修理の実技研修、読み聞かせ等の実践サークルの見学
- ・本の修理をきちんと学んで実践したい。
- ・絵本カバーの再利用するバッグ作りが楽しかったので、やってみたい
- ・工作・制作的な作業は初体験として取り組ませてもらっています。（ワークショップ的な参加になっています）
- ・読書会、朗読会、ビブリオ子ども版
- ・その年その年で傾向があったり流行があったりの選書を学びたいと思っています。本の修理で一冊でも⑤の本を減らしたいと思いますが・・・
- ・読み聞かせ、パネルシアターやペープサート作り
- ・本の終活

（３）その他に、やってみたいこと（自由記述）

- ・以前大麻でやっていた「読書会」を、「会の活動」あつかいとして、内容（作家別、ジャンル別などで）によっては企画サイドとして参加してみたい
- ・自分では思いつかないような事でも、できそうな事には、参加してみたいと思っています（無理のない程度に）
- ・図書館、学校の視察、診断、現状等の報告を聞きたい
- ・本の再活用をどのようにしたら広められるか？ぶっくらぼ、ブックストリート、ホームページでの PR 強化？ぶっくらぼ、古書バザー内でのおもしろ企画、コーナー展示を工夫する
- ・絵本の読み聞かせ（子供向け）、大人の絵本の読み聞かせ（施設等）
- ・えほんのばくりっこの会場で読み聞かせしても良いかも
- ・すぐに別れられない本たちの一時保管と最終的な行先の手助け

(4) ボランティア活動をしたい知り合いがいたら、本会を紹介したいと思うか

n	そう思う	まあ そう思う	あまり 思わない	思わない	わからない
20	13	6	0	0	1
100%	65%	30%	0%	0%	5%



(5) 今後、団体に期待していること（自由記述）

- ・定期活動が曜日や場所がもっと参加しやすくなればもっと参加できると思う
- ・ブックシェアリングは私にとって、とても居心地の良く、少しでも社会と関わっていたいという思いも叶えられ、ありがたい場所です。好きな本を通して、社会貢献できることに喜びを感じておりますので、今後もこの活動が続いていくことを願っています。
- ・次々と事業が拡大、再構築されていくように見えるが、専門的になっていきボランティアスタッフの活動の範囲が固定されていると思う。ボランティアスタッフ参加の場が増やすことは難しいか。
- ・私の数少ない自己満足の間だから、なるべくつぶれないでいてほしい。
- ・ボランティア同士の読書会とかビブリオバトルなんかあったら面白いなあ…。
- ・活動内容や理念の PR が不足している？のかな
- ・資金的な援助ができないので、体を動かすことで何かの支えになればと自分中心の枠での参加にしています。きびしい運営だろうと想像しています。
- ・あまりに古い本、汚れ、傷みの激しいものは廃棄するうえでの二度手間になるので、できれば提供される前に断りを入れられるようになればと思う
- ・読書意欲を向上させるのを後押しするような取り組み
- ・スマホ、タブレット PC 等の普及で子どもたちの本離れが進んでいるので、活字を読むおもしろさが伝わってくれることを願いたい
- ・図書再活用センターが改装されて見やすく、探しやすくなり本を希望する団体施設の方が今まで以上に多くなることを期待しています。ボランティア活動としての活動内容について信濃での内容以外の活動は新しく入ってきた方は理解していないと思うので明記しておく事も必要だと感じました

- ・ これからも持続的な活動ができることを祈念しています。
- ・ 今は荒井代表の熱意のもと集まっていて、荒井代表ひとりの負担が大きくなってきていると思います。各活動の代表のような人を決めて動くことができないだろうかと思います。今のままだと代表が倒れたら会はどうなるのだろうと思います
- ・ 代表に過重な負担がかからない範囲でできる事を永く継続していく事
- ・ 細く長く続けてください

【コメント】

回答者のすべてが「継続して活動に参加したい」と思っており、活動に参加することで、少なくとも最低限達成したいことを達成できていると言えます。

回答者の 65%が、「活動を通してできる事を増やしたい」という意欲があり、活動に対して前向きです。自由記述には、「本の修理」というキーワードが頻繁に出てきていました。活動の幅を広げられる素養が十分あるので、ボランティアスタッフと一緒に積極的に活動を展開できると思います。

回答者の 9 割以上が、本会の活動を他の人にも勧めたいと回答しています。新規のスタッフも参加しやすい雰囲気づくりは、引き続き維持できるとよさそうです。

「設問 7（5）」の自由記述で最も多かったのは、「団体の継続性」です。活動に対する満足度が高いため、継続して活動に参加したいと強く願っているスタッフが多いように感じました。現状では、団体運営の負担が代表に集中しすぎていることを懸念する声もありますが、それに対する解決策が見いだせていない状況です。

回答結果から見たことを整理する

○ボランティアスタッフが団体や活動に対して満足していること

- ・活動に参加している大きな理由は「目的に共感」「本が好き」の二つであり、9割の回答者が、活動に参加することで「本を通した社会貢献ができる」と感じている
- ・団体のボランティアスタッフ同士の雰囲気や交流状況は、良好な状態と言える。ボランティアスタッフ全体の雰囲気はアットホームと感じる人が多いが、排他的にならず、新規スタッフもなじみやすい雰囲気になっている
- ・回答したボランティアスタッフの全員が「継続して参加したいと思う」と回答しており、現状で活動の参加を辞めるほどの大きな不満はないと言える

○ボランティアスタッフが活動や団体に対して疑問を持っていること

- ・活動内容については、難易度は易しく、意義深さは感じているが、身体への負担が大きく、効率的に作業できているかは疑問である
- ・活動の中で困っていることは、寄贈された本をどう活用するか、判断基準がわからないことである。ボランティア活動では、仕分ける作業が多いので、日常的に困る状況が発生している
- ・無償提供の機会が少ないと感じている回答者が多く、有償頒布についてはどちらともいえないと感じている回答者が多い
- ・事務的な情報共有のしくみについては現状の方法で問題ないが、団体の事業計画の共有や計画決定のしくみ、収支、成果の共有については、いずれかまたは複数で「納得していない」「多少疑問を感じる」を選択した回答者が3割いるため、見直しが必要

○団体全体でのボランティアスタッフの立ち位置

- ・事業内容、理念と目標、代表については、理解したうえで活動に参加できているが、収支、役員についてはほとんどの人が理解できていないと言える
- ・現状でも十分満足してボランティア参加してもらえる状況ではあるが、団体運営の負担が代表に集中しており、「代表が不在となった際には活動を継続できない」とコメントしている回答者が複数名いる。回答者全体の5割以上は活動歴が6年以上で、中堅の立ち位置でもおかしくないなので、いくつか責任のあるポジションを設定し、代表が不在となっても活動を維持できるよう、ボランティアスタッフを育てる必要を感じる
- ・団体運営についての話し合いの機会を設けた場合には、参加だけでなく参画についても期待できる

2022 年度の活動のヒント

アンケート結果から、ボランティアスタッフが前向きにとらえている点と、「よくわからない」または「納得していない」と感じている点が、明確になったように思います。

以下の通り、維持すべき点と改善が必要な点について、2022 年度の活動のヒントとして挙げさせていただきます。

○維持すべき点

① 団体の理念や目標を共有し、活動について情報共有を行う

これまで通り、活動時に団体や北海道の読書に関する情報共有を行う。特に「本を通した社会貢献がどのような形で実現しているのか」ということを意識し、土曜日の活動以外での情報共有の機会があると、より活動に対する理解が深まる

② 団体全体の「活動しやすく、交流しやすい」雰囲気づくり

活動歴が長いボランティアスタッフを特別扱いするなどなく、だれでもフラットに活動に参加できるよう意識して、ボランティアスタッフにもこの雰囲気づくりに参加してもらえるよう工夫する

③ ボランティアスタッフの募集方法や頻度

メーリングリストなどを活用して、ボランティアスタッフが活動に参加できる機会を作り、積極的に発信する

○改善が必要な点

① 団体運営に関する情報共有

ボランティアスタッフがわかるような収支や事業成果の説明、団体役員の紹介と役割の説明をする機会を設定する。より多くのボランティアスタッフが団体についてより深く理解して活動に参加することで、より良い団体運営の方法や活動展開につなげられる

② 活動内容について

身体への負担や作業の効率の見直しを行うことで安心安全で、参加しやすい活動を実現する。また、無償提供の機会づくり、本の修理講座などの機会づくりにも取り組むと、より有意義な活動内容となり、団体としての幅も広がる

③ 団体運営についての意見交換の場の設定

回答者の全員が「活動に継続して参加したい」と回答していることからわかるとおり、団体の維持の重要性を感じる結果となった。活動に参加する人数の増加や寄贈本の増加など、活動の規模も大きくなっていることから、団体の維持については重要なテーマだと言える。現状の「代表に負担が集中する体制」だと、代表不在になった際に活動が続けられなくなる恐れがある。これからは、ボランティアスタッフや役員などと団体運営について意見交換し、継続して活動を展開できる団体運営の方法について、模索する必要がある

おわりに

本会の活動が、ボランティアスタッフのみなさんに非常に前向きにとらえていただけていることを感じるアンケート結果となりました。アンケート評価実施にあたっては、新型コロナウイルスの影響で、回答目標数を集めることができるか不安がありましたが、データや郵送での提出にご協力をいただきありがとうございました。

結果を分析しますと、回答したボランティアスタッフのみなさんが、団体の理念に対しては意義深く高く評価してくださり、スタッフの雰囲気などについては非常に好印象であることがわかりました。それに対し、身体への負担が大きい作業があることや本の判断に迷うことが多いこと、団体運営について疑問を持っていることもわかりました。課題として整理したことについては、次年度の活動のヒントとして活かしていきたいと思います。

最後になりますが、この度は、回答時間 20 分というボリュームのあるアンケートにご協力をいただきありがとうございました。本会は発足して 2022 年度で 14 年目を迎えます。発足当時から、社会情勢や読書環境が大きく変化していますが、読書を通して心が豊かになったり、悩みを解決できることは、変わっていないと思います。これからも、北海道の読書環境整備のために活動して参りますので、ぜひ一緒に活動していただけますと幸いです。

【企画・制作・発行】

一般社団法人北海道ブックシェアリング

企画部主任 竹次奈映

住所 〒069-0852 江別市大麻東町 13-45

電話 011-378-4195

ファクス 011-378-4196